



# 愛媛県立新居浜病院ニュース



vol. 16 平成 23 年 5 月 発行

院長挨拶 P1 東日本大震災救護の活動で今思うこと P1~2 新任者紹介 P3~4  
リハビリテーション部紹介 P5 糖尿病連携サークル活動 P6 ボランティア活動 P6



院長 酒井 堅

新年度にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今年の冬はかなり寒さが厳しく、ようやく春が巡って来たなと思い始めた矢先の3月11日、M9という途方もない大地震が東日本を襲い、多くの人命と生活の基盤が失われました。

まだ、多くの人々が避難所暮らしを強いられておられます。心よりお見舞い申し上げます。

さて、当院も4月より新体制で診療を行っております。4月1日より地域周産期母子医療センターを立ち上げました。小児科医5名、産婦人科医4名と看護師等の医療スタッフで頑張っております。

一般診療におきましては、各診療科の専門性を生かした医療を提供してまいります。

東予救命救急センターでは、昨年一年間で2000名を超える患者さんを受け入れてきました。今年度も昨年以上に入院の必要な救急患者さんを積極的に受け入れていきたいと思っております。

今後とも地域に信頼される病院を目指し、安心して安全な医療を提供すべく職員一丸となって努力してまいります。どうか今年度も県立新居浜病院をよろしくお願い申し上げます。

## 東日本大震災愛媛県立医療救護班（第一班）救護の活動で 今、伝えたいこと・思うこと 看護部 井上文江・玉井久百江

宮城県災害対策本部や石巻市役所には、被災地からの通信不能や道路の遮断で、正確な情報が入らず、宮城県に入った2日間は、市役所・支所・避難所・病院等を転々としました。行く所々の家々は破壊され、まさに廃墟と化した中で、様々の国の自衛隊が遺体捜索と収容をしていました。瓦礫をのけて作った道や、地盤の沈下した目線の高さに海面がある道を迂回しながら進みました。

3日目からは、石巻赤十字病院と調整して、石巻市東部の北上地区の診療支援を担当しました。高台の中学校近くまで津波に襲われ、周りは浸水して池のようになり水面から屋根や電柱が見えてやっと宅地だったことが分かりました。枯れ木には、クリスマスツリーのように海の浮き輪や網などが引っ掛かり、津波の高さを知りました。避難所に避難されている人は1600人で町の庁舎も破壊され、職員の半分はなくなったそうです。

3月18日~22日の間に272人診察しました。主に持病の高血圧症・気管支炎・不眠・外傷などで、場所は、女川原発体育館・北上中学校体育館・橋浦小学校・高齢者福祉センター・小室地区の民家でした。

活動の目的は①医療救護 ②被災者の思いを共感することでした。実際は①がほとんどで、②は血圧測定や問診時に話をお聞きするのがやっとでした。「家は流されてしまい命があるだけです」「40・50代の甥が流され、80過ぎの自分が生き延びたことが申し訳ない」「あの日を思い出すと怖い」などの話を聞き、泣きながら血圧測定をしました。



被災者は、少しの食事と暖房もなくトイレも流せないなど本当に大変な状況の中で、辛抱して生きておられました。元々あった診療所は津波に流されていましたが、診療所の多くの医薬品が確保されており診療に大変役立ちました。しかし、医薬品が整理されてなく大衣装ケース6個の内服薬・段ボール箱3箱の外用薬から必要な薬剤を探すのは大変な苦勞でした。薄暗い体育館の隅で、ヘルメットの明かりを頼りに一種の薬を探すのに3名がかりで30分かかかる状態でした。診療の合間をぬって2日間で、すべての薬剤を分別してデータベースを完成しました。

在宅では、5年間の寝たきり生活を送ってこられたが、停電でエアマットが作動せず、初めて褥瘡形成したことをお嫁さんが話してください処置を受けられることに感謝されました。お別れの時、お礼を言いながら終始にこやかにされていたお嫁さんに、2日うちには、愛媛県立病院のスタッフがきてこの後も継続してケアができることを伝えると、突然「安心しました」と声を出して泣き出しました。先の見えない不安の中で、継続して医療が受けられるという「安心」を求めていることを感じました。今回の愛媛県病院の2か月間継続する救護体制は、被災者の方に医療と共に大きな安心をもたらすことができると思いました。

今回の活動は、使命感や団結力に支えられたと思っていました。帰ってきて今思うのは、多くの人たちの思いや行動に私たちが支えられていたということです。



### 地元の方

野宿覚悟で出発したが、予定外で拠点になった登米市のホテルは水道・電気を確保し、近くのラーメン屋は遅くなった私たちを待って食事を提供してくれた。初日と最終日に宿泊した山形県のホテルは、最終日に到着すると「東日本大震災復旧作業お疲れ様です」の垂れ幕を掲げて待っていてくれた。地元の方々から、暖かい精一杯のおもてなしを受けた。

### 被災者

「愛媛の遠くからありがとう」と手を握られたこと「こちらは寒いでしょ」と掛けていた毛布を差し出し在宅ではストーブを付けようとしてくれたことなど、どちらが支援者なのかと困惑するほど被災者の方々には優しく暖かった。

### 病院関係者

公営企業管理局・中央病院・新居浜病院の多くの方々が出迎えてくださった。年度末の忙しい時期に副看護部長・看護長が不在だったが、支障がないように救護業務に専念させてもらえた。スタッフは、急な出発に思いつく物品を持ってきてくれた（カバン・湿布・ホッカイロなど・何故かお土産用のタルトもあった）。他部署からは電話代の10円玉やSPDは必要物品を提供してくれ「何かしたい」という皆の思いが伝わってきた。



### 救護班の仲間

余震や道路の陥没や浸水など危険な状況だった。急な出発で不休だったことや緊張の続く中で体調を崩す者もいた。事務職も血圧測定や薬剤分別するなど丸となって活動した。医師2名・薬剤師1名・事務職員1名、看護師4名の仲間は、その時々々の状況で役割や立場を認識しながら、緊張の中にもユーモラスな団結状況を保持できた。帰った翌日からは日常の激務が待っていた。メンバーは「家は見事に散らかっていたが片付ける家があること、仕事は容赦なく忙しいが働ける職場があることに感謝」と言っていた。

### 一般の方

出発の松山・羽田空港では「救護頑張ってください」「御苦労様」と多くの方から声をかけられ、皆の思いをリュックと一緒に背負って出かけた。帰りの飛行機では、CAさんから手書きメッセージとキャンディーをもらい、到着時には「医療者の方はこうして直接に救護ができるから素晴らしいです」とCAさんが泣いていた。改めて、看護師であることに誇りを持つことができた。

## 🌸 新任者紹介

### きくちひさお 事務局長 菊地久男



住友のお城下「新居浜」へ。そして、大切な命を守る病院へ。敬愛する上司の言葉「土地を愛し、仕事を愛し、妻を愛す」を胸に。

就任して間もなく、お叱りの電話があった。「医師が上から目線で、親身に対応してくれなかった」との苦情である。ひたすら傾聴し、反省点を承りながら、4月以降感じている率直な思いを伝えた。医師を始め看護師等職員は、最善を尽くそうと頭が下がるほど頑張っている。これからも、当院を利用して、エールを贈って欲しいと・・・。

「地域から信頼され、必要とされる病院」であり続けるため、地域医療の確保と医療水準の向上に、率先垂範されている酒井院長を、事務方として微力であるがしっかり支えたいと思っている。関係医療機関や市町等にも一層の協力・連携をお願いしたい。

ところで、恐妻家である私は、新居浜祭りまでに市内を探索し、あちこち案内し喜んでもらおうと密かに計画している。

最後に、東日本大地震で被災された皆さんへ、心からのお見舞いを申し上げ、被災地の復興を祈念したい。

平成23年4月から看護部長に就任しました近藤と申します。どうかよろしくお願いたします。昭和51年に新居浜病院に就職し、平成21年から2年間、中央病院への転勤を経て帰ってきました。

当院は急性期医療として東予救命救急センターを併設しており、また今年は地域周産期母子医療センターを開設しました。急性期医療施設としてまた、新居浜周辺における地域医療の一端を担うべき体制も徐々に整ってきました。

看護部は「心のこもった看護」や「優しさ・思いやりの心」を基本に「一人一人を大切に、満足していただける看護を行う」ことを目指しています。また、患者さんに安心と信頼をモットーに看護職員一人一人が自己の役割と責任を果たすべく、日夜看護業務に取り組んでいます。そして、自分の選んだ職業「看護」を、多くの仲間と語り合えることができる看護部を目指しています。

### こんどうちづえ 看護部長 近藤千鶴恵



### 医師 ささき やすひろ 佐々木 康浩

Q1 専門分野は？  
A1 循環器

- Q2 医師になった理由は？  
A2 人の役に立つ仕事をしたいと思ったから。
- Q3 趣味・特技は？  
A3 ドライブ、映画鑑賞
- Q4 患者様に接する際、心がけていることは？  
A4 優しく患者様が安心できるように接する。
- Q5 ひと言どうぞ。  
A5 まだまだ未熟者ですが、よろしくお願いたします。



### 医師 むらお きくこ 村尾 紀久子

Q1 専門分野は？  
A1 小児科一般、新生児、小児循環器

- Q2 医師になった理由は？  
A2 手に職をつけたかった。
- Q3 趣味・特技は？  
A3 車はわりと好きです。文具も好きです。
- Q4 患者様に接する際、心がけていることは？  
A4 節度ある対応を。
- Q5 ひと言どうぞ。  
A5 よろしくお願いたします。



くわはら ゆう

医師 桑原 優

Q1 専門分野は？  
A1 小児科一般

Q2 医師になった理由は？  
A2 アレルギーの治療をしたかったから。  
Q3 趣味・特技は？  
A3 音楽、映画、ドライブ  
Q4 患者様に接する際、心がけていることは？  
A4 明るい笑顔で分かりやすい話しをする。  
Q5 ひと言どうぞ。  
A5 一生懸命頑張りますので、ご指導よろしく  
お願いします。



いらいち あつし

医師 堀内 淳

Q1 専門分野は？  
A1 消化器外科、一般外科

Q2 医師になった理由は？  
A2 何か人の役に立つ仕事に就きたかったから。  
Q3 趣味・特技は？  
A3 音楽鑑賞、映画鑑賞  
Q4 患者様に接する際、心がけていることは？  
A4 何を希望されているのかをいつも考える  
ようにしています。  
Q5 ひと言どうぞ。  
A5 よろしくお願いします。



もとけい けんじ

医師 根津 賢司

Q1 専門分野は？  
A1 呼吸器外科

Q2 医師になった理由は？  
A2 幼少期には病気がちで医療に救われたため。  
Q3 趣味・特技は？  
A3 アウトドア（キャンプなど）  
音楽（ギター、シンセサイザー）  
Q4 患者様に接する際、心がけていることは？  
A4 分かりやすい言葉で接し、信頼関係を  
築けるように心がけています。  
Q5 ひと言どうぞ。  
A5 今、日本がひとつになる時！  
頑張りましょう！みんなで！



まつばら けんじ

医師 松原 圭一

Q1 専門分野は？  
A1 周産期、臨床遺伝学、  
腹腔鏡手術

Q2 医師になった理由は？  
A2 救うことのできる胎児を救いたいと思ったから。  
Q3 趣味・特技は？  
A3 バンド活動  
Q4 患者様に接する際、心がけていることは？  
A4 言葉の向こう側にある思いを知ろうとしている。  
Q5 ひと言どうぞ。  
A5 気軽に御相談ください。



せんた たかあし

医師 千田 卓憲

Q1 専門分野は？  
A1 麻酔

Q2 医師になった理由は？  
A2 (?)  
Q3 趣味・特技は？  
A3 (昔) 準硬式野球部  
Q4 患者様に接する際、心がけていることは？  
A4 ていねいに。  
Q5 ひと言どうぞ。  
A5 よろしくお願いします。



いそや けんじ

医師 関谷 慶介

Q1 専門分野は？  
A1 麻酔

Q2 医師になった理由は？  
A2 生死の境界はどこにあるか知りたかったため。  
Q3 趣味・特技は？  
A3 どこでも寝られること。  
Q4 患者様に接する際、心がけていることは？  
A4 視線の高さをあわせて話すこと。  
Q5 ひと言どうぞ。  
A5 まだまだ発展途上の段階ですが  
頑張っていきたいと思います。

## リハビリテーション部紹介

こんにちは 県立新居浜病院リハビリテーション部です

### リハビリテーション医療とは

- ◇ 基本的動作能力の回復などを目的とする『理学療法』
- ◇ 日常生活動作能力・社会的適応能力の回復などを目的とする『作業療法』
- ◇ 言語聴覚能力の回復などを目的とする『言語聴覚療法』  
などの治療法により構成されています。

### リハビリテーション部スタッフ構成

理学療法士：4名・作業療法士：1名・言語聴覚士：1名  
看護師：2名・リハビリ助手：2名



### 当院リハビリテーション部の特色

心大血管疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患に対するリハビリテーションを軸に運営しています。

これらの各疾患別リハビリテーションは関係多職種スタッフから構成された専門部会を設置し、定例会や研修会などを通じて業務運営から症例検討、診療知識・技術の共有、啓蒙まで専門スタッフによるチーム医療を提供できるように活動しています。

当院は救命救急センターを併設しており、リハビリテーション医療においても患者様の状態が許すかぎり発症または受傷直後の超急性期から介入させていただいております。しかし、急性期病院としての性質上、入院期間が短く、当院での長期にわたるリハビリテーションサービスの提供が困難な状況であります。そのため、他の回復期病院・維持期病院・在宅介護施設等と緊密な連携をとるために合同カンファレンスへの参加や地域連携パス・サマリーの作成・提出など、スムーズな病診連携を行えるよう心がけています。

これからも皆様のご指導ご鞭撻をお願い致します。

#### 病気やけがの時期による区分

急性期	発症または受傷後、入院から車椅子で動けるくらいまでの時期（～約1か月）
回復期	訓練室で歩行や日常生活動作練習を行う時期（～約6か月）
維持期	獲得した機能を退院後、在宅や外来通院で維持していく時期（約6か月～）

### 新スタッフ紹介



中央病院からきました片木です。心大血管疾患リハを担当しています。  
趣味はパソコン・バドミントンとインドア系です。

片木 祐志（理学療法士）



作業療法は今年度新設され、中央病院より配属されました。少しずつ皆様のお役に立てるよう頑張ります。出身は香川県でうどんが好きです。

太田 千晶（作業療法士）

## 糖尿病の病診連携における活動

糖尿病診療について、地域における診療レベルの向上と病診連携を目的とし、各医療機関間で最新の知識の共有、情報交換、症例検討を行う勉強会です。平成23年3月14日（月）当院2F大研修室にて、未曾有の大災害、東日本大震災後ではありましたが、病院内外から42名の方に参加いただきました。酒井院長の挨拶に続き、末田章三副院長から「肥満と循環器疾患」について講演がありました。冠動脈造影時に光干渉断層法を用いて血管壁を詳細に観察し得られた最新知見や、糖尿病の足病変に対する血管治療について学びました。

今回は6月21日、災害に備えて普段から診療の上で大切なことを皆で討論したいと考えています。

糖尿病・甲状腺 南尚佳

### 第6回新居浜DM連携Circleプログラム

日時：平成23年6月21日（火）19:00  
場所：愛媛県立新居浜病院 2F大研修室

#### ◆レクチャー◆

- ・講師 山内クリニック 山内 寿恵先生  
仮題 「心のケアについて」
- ・当院看護部等より災害時の対応について

医療関係者の方の参加は自由です。

### 〈新居浜DM連携Circleに参加して〉

内科外来 渡邊 登代子

今回は当院の救命救急センターにおける低血糖症例について調査した結果を報告しました。調査から低血糖症例の大半はSU薬内服患者であり、現在の当院内科外来の指導だけでは不十分な面があることがわかりました。低血糖対策からみても、調剤薬局や他院との情報交換や連携は不可欠です。症例検討でも活発な意見がなされました。参加者のアンケートからも他院との情報交換と連携の必要性を実感したという意見が多くあり、実りのある会でした。



## ボランティア活動

4月29日（金）近隣の住民の皆様（ひのきしん）と、院内職員で病院の清掃活動を行いました。



快晴の中、草引きや  
枝木伐採など、  
大勢の方に  
頑張っていただき  
見違える程  
綺麗になりました。  
ご協力どうも  
ありがとうございました！